

抗インフルエンザウイルス薬の安定供給等について

(地Ⅲ182)

平成23年11月29日

日本医師会感染症危機管理対策室長 保坂 シゲリ

今般、厚生労働省医政局経済課長、健康局結核感染症課長連名により、各都道府県衛生主管部(局)長に対し、抗インフルエンザウイルス薬の安定供給等についての通知がなされ、本会に対しても協力的な依頼がありました。

本通知は、インフルエンザ患者に対して適切な検査・治療を行うためには、抗インフルエンザウイルス薬及びインフルエンザウイルス抗原検出キットについて、その安定的な供給等を図ることが必要であることから、下記の対応を求めるものです。

つきましては、貴会におかれましても、本件についてご了知いただき、管下郡市区医師会、関係医療機関等に対し、周知方よろしくご高配のほどお願い申し上げます。

記

1. 医療機関、薬局(以下「医療機関等」という。)において抗インフルエンザウイルス薬を注文する際には、各医療機関等における在庫量やインフルエンザの流行状況等を踏まえ、真に診療に必要な注文量となるよう配慮すること。
2. 抗インフルエンザウイルス薬の安定的な供給の確保の観点から、今シーズン中は備蓄を目的とする注文は行わないこと。
3. 医療機関等へ一度に大量に抗インフルエンザウイルス薬が納入されると、市場に流通する抗インフルエンザウイルス薬の在庫量に与える影響が大きいことから、診療に支障を来す場合を除いて、卸売販売業者の分割納入に協力すること。
4. 抗インフルエンザウイルス薬の不足が発生した際、都道府県から融通の要請があった場合には積極的に融通に協力すること。
5. 抗インフルエンザウイルス薬の投与に際しては、薬剤の必要性を慎重に検討するなど添付文書に記載されている内容を踏まえ、適正に使用されるよう、徹底されたいこと。
6. インフルエンザウイルス抗原検出キットに用いる咽頭ぬぐい液等を採取する際には、患者の飛沫により医療従事者が感染する可能性が高いとの指摘があることから、十分な感染防御手技を講じられたいこと。
7. 都道府県では担当課(感染症対策、薬務、医務等)が中心となり、抗インフルエンザウイルス薬対策委員会等を設置し、安定供給対策等を協議することになるので、在庫状況等の調査を求められた場合には、積極的に協力すること。

医療時事ニュース (12月8日~12月14日)

- インフルの流行始まる 広島市 12・8 中国
- 広島県内の医療機関 DMAT会議発足へ 災害派遣スムーズに 12・8 中国
- 県立広島病院に救急搬送相次ぐ 妊婦の旅行 油断は禁物 12・8 中国
- JA病院資産 3年借り受け 府中市が説明 12・9 中国
- 「広島版CDC」県が検討委発足 感染症 観測施設拡大を 12・10 朝日
- 原発事故に赤十字は何かができますか? 国際赤十字・赤新月社連盟会長 近衛忠輝さん 12・10 毎日
- 奨励金制度 広島県が創設 広島大の院生医師 中山間地域で貢献 12・10 中国
- 放射線講座に市民ら200人 放影研 健康リスク 高い関心 12・11 産経
- エイズ発症8人 最多ペース 県、検査減少を懸念 12・11 中国
- 黒い雨データ 公開検討 放影研 公表時期明示せず 12・13 読売、朝日、毎日、中国
- 自己心臓で交換弁 広島大病院手術 血栓の防止期待 12・13 中国
- でるた 道しるべ 広島西医療センター循環器科医長 藤原仁 12・13 中国夕刊
- 放影研「黒い雨データ」活用や公開 真剣に検討 12・14 毎日・中国
- 広島国際大 総合リハビリ学部新設へ 医療系大学 原点に回帰 12・14 中国